

自己研鑽のきっかけに

～技術士（建設部門）～

受験の動機・経緯

入省して以来、最初の一年目のみ現場の事務所で勤務し、以降は、霞が関等での政策的な業務に従事してきました。平成28年度に、10年以上ぶりに現場に配属され、設計・調査・積算・現場監督等に携わることになりました。

事務所では、業務・工事を発注し契約の相手方を決める際に、価格のみならず、応札者からの技術提案等を適切に評価することが必要になります。そして、応札者には、技術士等一定の有資格者を求めるのが一般的です。

応札者に対して、技術士等の有資格者の配置を求めつつ、その応札者からの技術提案等を適切に評価しなければならない訳ですから、事務所としても同等（かそれ以上）の知識や能力が求められるところです。そこで、私自身も技術士を取っておくべきだろうと考えたのが受験のきっかけです。

また、大学卒業以来、すっかり土木工学から遠ざかってしまっていたため、資格試験の勉強を通じて、知識のメンテナンスもしてしまおうという狙いもありました。

平成28年度一次試験の募集が始まると、すぐに受験申込をしました。そして、オンライン書店で問題集を購入しました。この記事をお読みになっている方は、技術士取得に関心のある方だと思います。そのような方は、今日のうちにオンライン書店で問題集を買ってしまうと良いでしょう。「いつか取りたい」だけではいつまでたっても勉強も始めませんし、資格取得には至りません。

筆記試験における傾向と対策

私が受験したのは、平成28年度（一次）、平成29年度（二次）ですが、令和元年度に試験方法が改正され、第二次試験の必須科目が択一式から記述式になるなどの変更があります。令和2年度以降の受験準備をされている方は、令和元年度の出題内容をよく確認頂ければと思います。

・第一次試験

基礎及び適性科目対応と専門科目（建設部門）対応で、それぞれをカバーする問題集が市販されています。過去問を何年分かこなすと、同じパターンの問題ばかりであることに気づきます。過去問の問題

文を見て、すぐ回答を見るという作業を繰り返します。その際、すべての選択肢について頭の中に整理するよう心掛けます。適性科目は、技術者倫理、技術士制度等についてであり、より過去問と同じような問題ばかりかと思います。

・第二次試験

筆記試験は、令和元年度から、必須科目の択一式が記述式になる等、変更がなされています。古い問題集だと対応していないでしょうから、最新の問題集を購入頂ければと思います。

すべて記述式になったといっても、論述能力を確認するというより、知識を聞いてくる問題が多い印象です。そのため、知らない内容に関する問題が出てくると、全く歯が立たないおそれがあります。

出題内容としては、様々な政策課題がテーマに取り上げられますが、各分野ではオーソドックスな内容になっているかと思います。選択科目については、過去問と国土交通省ホームページに掲載されている各分野での最新トピックスについてある程度カバーできていれば良いかと思います。必須科目については、国土交通白書が最も網羅的でまとまっているかと思います。

口頭試験における傾向と対策

私の場合は、「筆記試験における答案」に対する質問は全くなく、業務経歴に関する質問が多かったように思います。また、「今までに勤務したポストで、こうしておけば良かったというような話があるか」「公務員で技術士を取ろうと思ったきっかけは何か」など問われました。もちろん定番の技術士の3義務2責務も問われました。



国土交通省 港湾局 港湾経済課
特定港湾運営会社指導官

なかじま よしまさ
中嶋 義全

(取得した資格：技術士(建設部門))
(資格取得年度：平成29年度)

受験者へのアドバイス、注意点、励まし等

まずは、月刊「建設」の技術資格試験合格体験記に目を通し、技術士を取得しなければならないと強く感じましょう。そして、期限までに受験申込書を提出しましょう。受験料が勿体なくて、勉強するきっかけになります。以降も、月刊「建設」の体験記は必ず目を通します。月刊「建設」の体験記を読むたびに、やらないとダメだなと気づくことになり、良いペースメーカーになります。そして、試験当日は、必ず会場に行きましょう(建設部門では、受験申込者の75%程度しか実際に受験していないようです)。

技術士試験への挑戦を通じて、自己研鑽になりますし、合格すれば仕事をする上での自信にもつながると思います。私の体験記が参考になれば幸いです。